2015年4月21日（火曜日） 毎日小学生新聞 （第3種郵便物認可）

仕事百科

3

建設 コンサルタント

建設業のうち、建物以外の道路や鉄道、公園、橋、水道、港などを造る仕事を土木事業と呼びます。事業の調査・計画・設計・維持管理などをするのが建設コンサルタントです。黒島直一さん（43）に聞きました。 【竹花周】

黒島さんは「大日本コンサルタント」という会社で、国内外の橋や道路、公園などを計画・設計し、見た目も美しくて周囲の景色になじむようデザインする部署にいます。具体的にどんなことをしているのでしょう。

埼玉県の西武新宿線狭山市駅の西口地区を整備する事業に参加したときのことです。建物を結び、駅前へとつながるペデストリアンデッキ（大きな歩道橋）を設計しました。橋の大きさや高さ、工事にかかる費用などあらかじめ決まっている条件の中でいくつかのデザインを考えました。

いろんな人の立場から

利用者が歩きやすいようにデッキにゆるやかなカーブをつけました。さらに橋が十分な強さを保っているか、車いすの人が通りにくい傾きや段差がないかなどを、チェックします。模型や図面、パソコンを使った絵（コンピューターグラフィックス）でできあがった場合の見た目や橋の上からの見晴らしも確かめ、一つのデザインにしぼりました。黒島さんは「一番大切にするのは、使いやすさと無駄のなさです。使いやすさを考えるには、いろんな人の立場で考えることのできる想像力が大切です」と話します。

駅前の整備には、ほかにも建物の建設や公園の整備など、たくさんの会社が携わりました。このときは、他の会社や行政の人ともうまく連携することができて、駅前全体の使いやすさを細かい所まで追求するために協力し合うことができたそうです。努力のかいあって、駅前の整備は2014年のグッドデザイン賞や都市景観大賞の優秀賞を受賞するなど、高く評価されました。

調査や計画、メンテナンスも

建設コンサルタントの仕事はほかにも、地質の調査▽自然環境を守るための調査・計画▽安全で住みやすいまちづくりのための調査・計画▽古くなった橋などのメンテナンス――など多くの分野にわたります。それぞれの分野で専門知識を持ったスタッフがいて、計画を作ったりアイデアを提案したりしています。「日常生活を支える縁の下の力持ち」「まちのお医者さん」などと呼ばれるのも、そのためです。

やりがい

・施設が完成して、たくさんの人に喜んで使われているのを見ることができること。自分が関わった施設は、かなり年数がたった今でも、こっそり見に行くことがあります。

大変なこと

・イメージしたデザインを、図面や表、文章などの書類にまとめること。イメージするときは楽しいけれど、書類にするにはたくさんの計算やたくさんの人との調整が必要です。

ペデストリアンデッキの模型を手にする黒島さん

七つ道具

黒島さん愛用の道具類。塗装の色を決める色見本、デザインを描く時に使うマーカー、模型を作るときのカッターナイフやのりなど

この仕事につくには

大学や高等専門学校で土木の勉強をして建設コンサルタント会社に入社する人が多いですが、文系の人でもなれます。子どものうちに、公園で遊んだり道路で自転車に乗ったり電車で出かけたり、土木施設にたくさんふれてください。その経験が、使いやすい施設を考えるのに役に立ちます。

大日本コンサルタント株式会社 景観デザイン室長
黒島直一さん

◆プロフィル 1971年、埼玉県上福岡市（現ふじみ野市）生まれ。千葉大学から同大学大学院工学研究科工業意匠学専攻に進み、96年に大日本コンサルタント（本社・東京都豊島区）に入社。入社以来、景観デザインを手がけている。

みんなのまちをデザインする

ある日の1日（例）

8:00	出社
8:45	朝礼
9:00	メール確認・仕事の準備
9:30～12:00	外出して関係機関と打ち合わせ
12:00	昼休み
13:00～18:30	社内で打ち合わせ、デザイン検討
18:30	退社

出典：毎日小学生新聞